

知床半島ヒグマ管理計画（第 2 期）に関する目標設定の考え方

知床半島ヒグマ管理計画（以下、管理計画とする）の「本計画の目標」に関する評価は、資料 2-1 の通り。第 2 期知床半島ヒグマ管理計画（以下、次期計画とする）の目標設定にあたっては、上記評価とは別に、管理計画における「本計画の目標」の課題を洗い出し、修正の可否について検討を行う必要がある。

1. 「本計画の目標」設定の課題とその対応

（課題）

- ・管理計画の目標の達成状況が芳しくない。アクションプランを作成・実行してきたものの、進捗が芳しくない項目がある。
- ・対策の努力量について、目標を設定する必要性はないか。

（対応案）

- ・次期計画においても、将来的に目指していく目標（中長期目標）とは別に、計画期間（5 年間）で達成・評価可能な目標を設定する。

2. 各目標の検討ポイントと対応の方向性

目標① 捕獲上限

（現行の目標）：

- ①計画期間内における、斜里町、羅臼町及び標津町内でのメスヒグマの人為的な死亡総数の目安を 75 頭以下とする。

（検討ポイント）

- ・環境研究総合推進費のとりまとめ結果を受けた、捕獲頭数の上限値の見直し。
- ・新たに設定する数値目標を”目安”とするか。
- ・数値目標を超えた場合に、その後の捕獲についてどう対応するか。
- ・最低捕獲頭数を設定する必要性はないか。

（対応案）

- ・現行計画どおり、数値目標はあくまで目安として扱い、目標を超えた場合も個体の有害性に応じた捕獲を継続する。

目標② 人身事故

（現行の目標）：

- ②計画期間内における、ヒグマによる人身事故をゼロとする。

（検討ポイント）

- ・発生した人身事故は、有害捕獲および人材育成捕獲（下見）中のハンターが負傷した事例であった。捕獲従事している時の人身事故を目標に含めるかどうか。

（対応案）

- ・捕獲従事している時の人身事故は一般とは切り分け、目標では一般による人身事故のみを対象とする。
- ・目標は一般による人身事故ゼロとし、中長期目標として捕獲従事中也含めた人身被害ゼロを目指す。

目標③ 危険事例

（現行の目標）：

- ③利用者の問題行動に起因する危険事例の発生件数を半減させる。
- ④地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例の発生件数を半減させる。
- ⑦漁業活動（特に羅臼側の昆布番屋等）に関する危険事例の発生件数を半減させる。

（検討ポイント）

- ・危険事例の判断基準を定義した上でモニタリングを実施、利用者に起因するものと地域住民に起因するものを分類している。
- ・人側の問題行動を伴わない危険事例を目標に含めるのか。
- ・ヒグマの生息地と人の生活圏が隣接している都合上、危険事例の発生件数をゼロにすることは極めて困難。削減目標の設定に関して検討が必要。
- ・羅臼側では崩浜以北の昆布番屋はほぼ無くなった。相泊以南は不完全ながら電気柵エリアでもあり、「地域住民」として括れる。
- ・事業者の中で「水産加工関係事業者」を特出しするかどうか。
- ・定置網が破られる、定置網にヒグマが羅網するなどの事例の扱いをどうするか。

（対応案）

- ・危険事例の発生件数の減少を5年間の目標とし、危険事例の発生を少数に収めることを将来目標とする。
- ・目標対象は従来通りとし、人間の問題行動に起因しない事例についても集計して件数をモニタリングする。
- ・「漁業活動（特に羅臼側の昆布番屋等）に関する危険事例の発生件数を半減させる」目標については削除する。

目標④ 農業被害

（現行の目標）

- ⑥斜里町における農業被害額及び被害面積を3割削減する。（注7、8）

（検討ポイント）

- ・斜里町における鳥獣被害防止計画との整合性。現状（令和3年～5年計画）では、5%削減としている。
- ・年によって増減があるため、年単位で比較するのが妥当なのか。
- ・市場価格に左右されて上下する農業被害額は、モニタリング項目として適切かどうか。
- ・削減対象は斜里町対象のみ、標津と羅臼は必要でないかどうかの確認。

（対応案）

- ・削減割合は鳥獣被害防止計画から引用する形とし、整合性を図る。
- ・被害面積の5年間の合計値で比較し、●割削減とする。
- ・将来目標として、農業被害を許容範囲内に収める。

目標⑤ 市街地への出没

（現行の目標）

⑤市街地（ゾーン4）への出没件数を半減させる。

（検討ポイント）

- ・地域を絞る必要性はないか、件数の大部分は羅臼町であり、削減対象の優先順位は羅臼町が高い。斜里町（ウトロも含む）および標津町については、現状維持としてもいい状況である。
- ・羅臼町におけるゾーン4の設定範囲は現状通りでいいのか。

（対応案）

- ・5年間の短期目標として、ゾーン4の対応件数を「減少」とする。
- ・羅臼町における出没件数を3割減、斜里町と標津町については現状維持とする。ただし、羅臼町ゾーン4への出没件数を減少させる目標は、現状では実現が困難な数値目標。何らかの対応策が必要との認識。

目標⑥ 普及啓発

（現行の目標）

⑧ヒグマによる人身事故を引き起こさないための知識、ヒグマに負の影響を与えずにふるまうための知識を地域住民や公園利用者に現状以上に浸透させる。

（検討ポイント）

- ・従来どおり5年に1回の頻度で住民・観光客向けアンケートを実施し、知識の普及度を図っていくことでよいか。
- ・アンケート調査による数値目標を掲げるか否か。